

15.国立文楽劇場



外観



舞台



文楽発祥の地大阪。江戸時代から道頓堀や日本橋周辺に芝居小屋が集まっていた「芝居町」であり、守り・発信するための本拠地として1984年開館しました。

設計者は中銀カブツタケや昨年の研修地で訪れたクアラルンプール国際空港など手掛けた、メタボリズム運動の中心人物である「黒川紀章」氏です。

建築コンセプトは【伝統芸能と都市空間をつなぐ場】。

訪れて感じた「現代と伝統の調和したデザイン」「学びの場であること」に対し下記にまとめます。

「現代と伝統の調和したデザイン」

- ・黒を基調にした落ち着いた和風モダンテイスト
- ・現代の大阪日本橋の町並みに溶け込みつつ、伝統芸能の「格」を感じさせる格子や瓦屋根風デザイン、内観には木材を用い温かみある要素等で和の雰囲気をプラス

「学びの場であること」

- ・舞台以外に資料展示室と小ホールを併設し、上演だけでなく教育や普及活動の場としている
- ・舞台には「床(太夫と三味線が座る場所)」「人形遣いの出入り口」「廻り舞台」などを備え、文楽の伝統的な演出をしている

関東とは異なる文化を発祥の地にて肌で感じることができ、とても貴重な経験となりました。

小澤